

家庭における地震対策について

2014年6月調査結果

- ◆東日本大震災から3年以上経過したが、震災直後に比べ、人々の地震への対策意識はどうなっているだろうか。全国の15～79歳男女を対象に、訪問留置法で、ご自身やご家族で行っている地震対策について聴取した。

【家庭における地震対策は、どのようなことを行っているか？】

- ◆地震に備えて何らかの対策を行っている人は8割半ば。
- ◆「懐中電灯」「飲料水や非常食の備蓄」「非常用のラジオ」が上位3対策で、いずれも3割以上。次いで「地震保険に加入している」が3割弱で続く。

【属性別にみた、家庭における地震対策は？】

- ◆性・年代別でみると、自宅における地震対策については、60代女性が最も多く、色々な対策を行っている。
- ◆「懐中電灯をすぐ使える所に置いている」「自宅に、非常用のラジオを置いている」は、年代が上がるほど多い。
- ◆「緊急時の避難場所や避難経路を確認している」は、20代で最も少なく、以降年代が上がるにつれ増える。
- ◆「スマートフォンなどに、防災に役立つアプリを入れている」は、男性は50代、女性は20代以下で多い。

- ◆エリア別にみると、関東は地震対策を行なっている率が9割と高めで、自宅における対策も「懐中電灯」「飲料水や非常食の備蓄」「非常用のラジオ」「家具等の転倒防止対策」など、全体より高いものが多い。
- ◆一方、中国・四国・九州・沖縄では地震対策を行っているものが少なく、たとえば関東では約5割だった「飲料水や非常食の備蓄」が中国・四国・九州・沖縄では1割半ば、関東では3割だった「災害時の備蓄品を詰めたリュックやカバンの用意」は、中国・四国・九州・沖縄では1割弱と低く、両エリアの差が目立つ。

設問文および選択肢全文は、下記のとおり。

問. 地震に備えて、あなたやご家族が行っている対策はありますか。あてはまるものをすべてお知らせください。(○はいくつでも)

<自宅における対策について>

- 1 家具や家電製品などの転倒防止対策や、食器などの落下防止対策をしている
- 2 懐中電灯をすぐ使える所に置いている
- 3 自宅に、ヘルメットや防災頭巾を置いている
- 4 自宅に、非常用のラジオを置いている
- 5 自宅に、非常用のトイレを置いている
- 6 飲料水や非常食などを備蓄している
- 7 災害時の備蓄品を詰めたリュックサックやカバンを用意している
- 8 消火器の設置場所や使い方を確認している
- 9 窓ガラスを強化ガラスにしたり、飛散防止フィルムを貼ったりしている
- 10 自宅に耐震補強工事・リフォームを行なっている
- 11 地震保険に加入している

<その他の対策について>

- 12 最低限の防災用品を持ち歩いている
- 13 ホイツルを持ち歩いている
- 14 スマートフォンなどに、防災に役立つアプリを入れている
- 15 職場や学校に非常用の靴を置いている
- 16 職場や学校からの徒歩での帰宅ルートを確認している
- 17 緊急時の避難場所や避難経路を確認している
- 18 緊急時の安否確認方法を家族で決めている
- 19 保育園/幼稚園や学校などの非常時の対応を確認している
- 20 その他
- 21 いずれの地震対策も行っていない

地震に備えて何らかの対策を行なっている人は8割半ば。

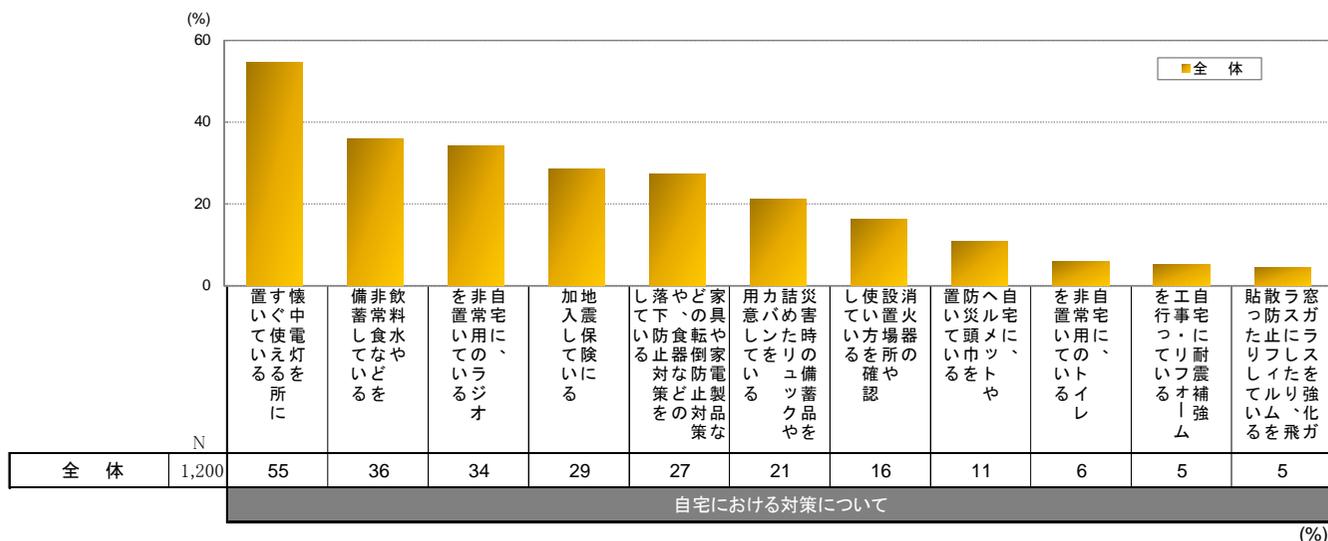
「懐中電灯」「飲料水や非常食の備蓄」「非常用のラジオ」が上位3対策で、いずれも3割以上。

■地震に備えて行っている対策で、最も多いのは「懐中電灯をすぐ使える所に置いている」が55%で半数以上。

■次に「飲料水や非常食などを備蓄している」が36%、「自宅に、非常用のラジオを置いている」が34%、「地震保険に加入している」が29%と続く。

■一方、「ホイッスルを持ち歩いている」「最低限の防災用品を持ち歩いている」「職場や学校に非常用の靴を置いている」はいずれも5%未満と少ない。

■「いずれの地震対策も行っていない」人は16%にすぎず、地震に備えて何らかの対策を行なっている人が8割半ばと多い。



性・年代別 <自宅における対策>

自宅における地震対策については、60代女性が最も多く、色々な対策を行っている。

「懐中電灯」「非常用のラジオ」は、年代が上がるほど多い。

■性・年代別では、60代女性で全体より高い項目が多い。

■「懐中電灯をすぐ使える所に置いている」「自宅に、非常用のラジオを置いている」は、年代が上がるほど行っている人が多い。また、「地震保険に加入している」は、全体では29%だが、50代男女では4割台と多い。

注)網掛けについて

■ :全体より5ポイント以上高い

		自宅における対策について																
		懐中電灯をすぐ使える所に置く	非常食や飲料水などを備蓄している	自宅に、非常用のラジオを置いている	地震保険に加入している	食器や家具などの落下防止対策をしている	転倒防止や家電製品などの対策をしている	家具や家電製品などの転倒防止	災害時の備蓄品を詰めたリュックやカバンを用意している	災害時の備蓄品を詰めたリュックやカバンを用意している	確認して設置場所や使用方法を確認している	消火器の設置場所や使用方法を確認している	自宅に、ヘルメットや防災頭巾を置いておく	自宅に、非常用のトイレを置いておく	自宅に耐震補強工事を行っている	家具の固定や、飛散防止フィルムを貼る	ガラスの強化や、飛散防止フィルムを貼る	窓の強化や、飛散防止フィルムを貼る
全体	N 1,200	55	36	34	29	27	21	16	11	6	5	5						
男性	15~19才	36	25	31	17	11	39	17	11	11	6	6	6					
	20~29才	76	33	28	16	15	13	16	11	9	8	1	5					
	30~39才	101	35	24	18	23	21	14	7	8	4	7	5					
	40~49才	105	54	32	33	28	31	17	10	8	5	5	7					
	50~59才	91	54	35	37	40	41	21	18	11	3	7	7					
	60~69才	106	63	31	43	28	24	21	18	12	5	10	4					
	70~79才	79	72	30	58	33	28	15	25	19	3	4	3					
女性	15~19才	36	39	44	19	22	36	22	3	6	8	6	0					
	20~29才	75	35	33	15	17	21	17	9	3	5	1	4					
	30~39才	97	46	36	24	29	29	26	8	7	3	6	2					
	40~49才	105	59	40	35	36	24	23	15	11	15	4	4					
	50~59才	90	67	39	39	42	29	24	19	14	7	1	2					
	60~69才	116	72	49	47	29	32	36	30	16	8	9	7					
	70~79才	87	76	47	53	28	25	20	29	14	1	3	6					

(%)

「緊急時の避難場所や避難経路の確認」は、20代で最も少なく、以降年代が上がるにつれ増える。

「防災に役立つアプリ」は、男性は50代、女性は20代以下が多い。

■「緊急時の避難場所や避難経路を確認している」は、20代が最も少なく、以降年代が上がるにつれ増える傾向がみられる。

■「スマートフォンなどに、防災に役立つアプリを入れている」は、男性50代、女性20代以下が多い。

注)網掛けについて

■:全体より5ポイント以上高い

		その他の対策について														
		確認している	緊急時の避難場所や経路を確認している	緊急時の避難場所や経路を確認している	緊急時の避難場所や経路を確認している	スマートフォンなどに防災に役立つアプリを入れている	その他									
		N														
全体	1,200	26	14	13	12	9	4	3	2	2						
男性	15~19才	36	28	14	19	0	14	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	20~29才	76	13	9	16	5	7	1	3	1	1	1	1	1	1	1
	30~39才	101	16	9	17	12	12	0	3	6	0	0	0	0	0	0
	40~49才	105	22	11	17	14	10	1	1	2	0	0	0	0	0	0
	50~59才	91	29	15	23	7	20	3	3	4	3	3	3	3	3	3
	60~69才	106	30	7	8	5	4	4	5	2	3	3	3	3	3	3
	70~79才	79	29	15	0	3	1	4	4	0	3	3	3	3	3	3
女性	15~19才	36	25	19	31	11	19	3	0	6	3	3	3	3	3	3
	20~29才	75	20	8	21	12	11	5	3	1	1	1	1	1	1	1
	30~39才	97	24	11	12	34	16	2	2	4	4	4	4	4	4	4
	40~49才	105	28	23	19	36	13	4	2	2	1	1	1	1	1	1
	50~59才	90	33	17	11	7	8	2	4	1	2	2	2	2	2	2
	60~69才	116	35	24	3	4	4	13	9	2	2	2	2	2	2	2
	70~79才	87	36	9	5	1	2	8	1	0	2	2	2	2	2	2

(%)

関東は何らかの地震対策を行なっている率が高め。

一方、中国・四国・九州・沖縄では、全体よりも低いものが多い。

■関東は、「いずれの地震対策も行っていない」が10%で、つまり何らかの対策を行っている人が9割と多い(P8参照)。具体的には「懐中電灯をすぐ使える所に置いている」「飲料水や非常食などを備蓄している」「自宅に、非常用のラジオを置いている」「家具や家電製品などの転倒防止対策等をしている」「災害時の備蓄品を詰めたリュックやカバンを用意している」が全体よりも高い。

■一方、中国・四国・九州・沖縄では、全体よりも低い項目が多い。

■関東と中国・四国・九州・沖縄を比べると、「懐中電灯をすぐ使える所に置いている」「飲料水や非常食などを備蓄している」「家具や家電製品などの転倒防止対策等をしている」「災害時の備蓄品を詰めたリュックやカバンを用意している」で両エリアの差が20ポイント以上と大きい。

注)網掛けについて

■ : 全体より5ポイント以上高い
 ■ : 全体より5ポイント以上低い

		自宅における対策について												
		懐中電灯をすぐ使える所に置く	飲料水や非常食などを備蓄している	自宅に、非常用のラジオを置いている	地震保険に加入している	家具や家電製品などの転倒防止対策を落す	災害時のリュックやカバンを用意している	災害時の備蓄品を詰めたリュックやカバンを用意している	非常用の設置場所を確認している	非常用の設置場所を確認している	非常用の設置場所を確認している	非常用の設置場所を確認している	非常用の設置場所を確認している	非常用の設置場所を確認している
N														
全 体	1,200	55	36	34	29	27	21	16	11	6	5	5		
北海道・東北	138	62	34	42	30	25	23	17	8	5	4	2		
関 東	438	62	48	39	28	38	30	18	13	9	6	5		
中部・北陸	192	54	38	35	30	27	24	13	17	6	7	8		
近 畿	192	48	37	30	27	21	13	21	7	4	6	5		
中国・四国・九州・沖縄	240	42	14	24	28	15	9	11	7	1	3	1		

中部・北陸では「緊急時の避難場所や避難経路の確認」が3割強と全体よりも高い。

■中部・北陸では「緊急時の避難場所や避難経路を確認している」が33%と、全体よりも高い。

■中国・四国・九州・沖縄では「緊急時の安否確認方法を家族で決めている」「保育園/幼稚園や学校などの非常時の対応を確認している」が6~8%と、全体よりも低い。

注)網掛けについて
 :全体より5ポイント以上高い
 :全体より5ポイント以上低い

		その他の対策について											
		確認している	緊急時の避難場所や経路を確認している	緊急時の安否確認方法を家族で決めている	スマートフォンやタブレットなどの役割を立っている	保育園/幼稚園や学校などの非常時の対応を確認している	職場や学校からの徒歩確認している	持ち歩いている	最低限の防災用品を	非常用の靴を	その他	地震対策のない	無回答
	N												
全体	1,200	26	14	13	12	9	4	3	2	2	16	0	
北海道・東北	138	25	15	15	8	8	4	4	2	6	17	1	
関東	438	26	17	16	16	14	6	5	4	2	10	0	
中部・北陸	192	33	13	7	13	6	4	3	1	2	17	1	
近畿	192	25	14	11	9	8	4	1	3	1	20	0	
中国・四国・九州・沖縄	240	23	8	14	6	6	2	1	0	1	20	0	

(%)

調査方法

- NOS(日本リサーチセンター・オムニバス・サーベイ)
- 調査員による個別訪問留置調査

調査対象

- 全国の15～79歳の男女個人

有効回収数

- 1200人(サンプル) ※エリア・都市規模と性年代構成は、日本の人口構成比に合致するよう割付実施

抽出方法

- 毎月200地点を抽出、住宅地図データベースから世帯を抽出し、個人を割当て

調査期間

- 6月調査

2014/6/4 ~ 2014/6/16

NOS(日本リサーチセンター・オムニバス・サーベイ)について

調査パネルを使ってインターネットで簡単に情報収集できる時代になりましたが、NOSでは、40年以上にわたって、

①調査員を使った訪問留置、②パネルモニターではない毎回抽出方式で調査を継続しており、代表性のある信頼の高いデータを提供しております。

NOSは、毎月1回定期的に実施する乗り合い形式(オムニバス)の調査です。

毎回ランダムに決められた200地点にて、対象となる方に調査員が協力を依頼してアンケートを回収します。

性年代構成を日本の人口構成比に合わせているため、全体結果は日本を代表する意見としてそのままご覧になることができます。

インターネット調査では、回収が難しい60代以上の対象者やインターネットを使っていない人の実態や意識を分析するのにも有用な手法と言えます。

《 引用・転載時のお願い 》

本リリースの引用・転載の際は、下記連絡先にメールにて掲載のご連絡をお願い致します。

連絡先: 日本リサーチセンター広報室 メール: information@nrc.co.jp

掲載では必ず当社クレジットを明記していただきますようお願い致します。

調査結果のグラフ・表をご利用の場合は、データ部分に当社クレジットの掲載をお願い致します。